

平成28年度

小中連携心のサポート事業について

1 ねらい

中学校での学習環境への不応適や不登校生徒数等が中学校1年生で急増するなどいわゆる「中1ギャップ」が指摘されている。丹南中学校においても、不登校傾向を示す生徒数は、どの学年においても見られ、学年スタートの4月に表れる傾向がある。しかしながら、個別指導や保護者との連携、教育相談、小中の連携、教育委員会をはじめとする関係機関（民生委員・自治会）との連携などの取り組みにより、学校全体としても限りなく解消する傾向にある。

しかしながら、自分の意志を通しすぎて友だちと衝突する、友だちとの関わりがほしいが人間関係づくりの方法がわからない、上手くとれない、出来ない傾向が見られる。また、課題が出来ないから学校を休む、自分を守るために平気で事実から目を背けるなどから学校を休む方向に向かう生徒もある。

また、学習面においては、学年の学習が十分にできている生徒とそうでない生徒との差が年々大きくなってきている。さらには学習に向かう姿勢においても差が大きくなってきている。テストの結果を分析すると、なめらかな分布にはならずふたこぶラクダ曲線を示す傾向（無回答で終わらせるなど）が見られる。

小学校で身に付けた知識・技能の連続した学びや体験や経験を中学校へ繋ぎ育てることが義務教育9年間を見通した学校間（校種間）の連携であると考えている。

そのために、3小学校1中学校の4校において、小中学校の教職員が義務教育9年間で児童生徒を育てるという意識を持ち、各校の取組を土台としながら、領域別取組を通して、「知・徳・体」のバランスのとれた力を育成するとともに、学びなどの不安の解消・自己肯定感の向上等を図っていく。また、小・中学校9年間の発達や学びを確保する観点から、単年度ではなく恒常的な取組とすることが重要である。

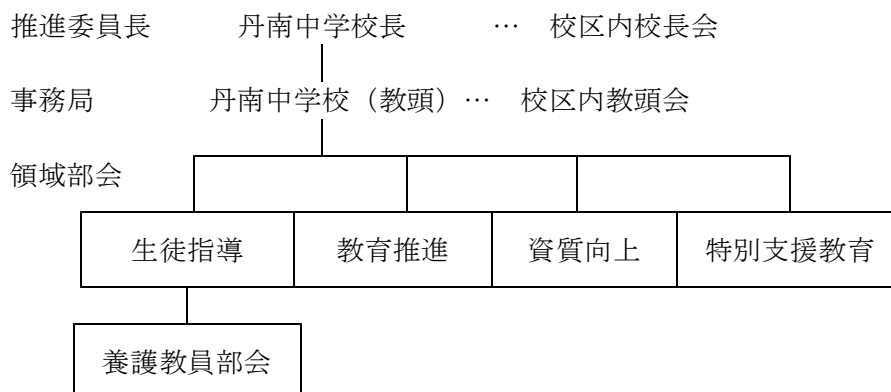
2 研究テーマ

（主）小中の指導の連続性を大切にし、自立的に生きる力を育成する
（サブ）不安解消と自尊感情の向上を目指して



キーワード 『自立』

3 組織



4 領域

(1) 生徒指導 …指導と支援

- ◎前期・中期・後期に応じた生徒指導の取り組みについて、各校での課題や成果を共有する。(小小連携・小中連携)
- 多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導の充実を図る。
- 4校で共通実践(指導の統一)を通して、指導の連続性を図る。

①情報交換

小中連絡会…年3回

②相互観察…学期に1回程度

- ・児童生徒理解
- ・指導方法の確認

③共通実践

- ・登校指導
- ・挨拶や清掃など

養護教員部会

- ・児童生徒の心身の発達段階についての共通理解を図る。
- ・保健室の効果的な運用についての研究を進め、児童生徒の心の安定を図る。
- ・保健業務の円滑な運営を図るための引継ぎを行う。

(2) 教育推進 …体験と経験

- ◎授業の相互乗り入れや出前授業等の実践を通して、児童生徒理解を深めるとともに、学びの伸長を図る。
- 地域教材や地域素材を生かした実践の交流を行う。

①体験

- ・中学校オープンスクールの実施
- ・体験授業や部活動体験を行う。(年2回 小小連携 小中連携)

②入学説明会…2月頃(児童と保護者対象)

- ・体験授業や入学に関する説明会を行う。

③授業交流

- ・教材開発
- ・学習規律

④出前授業(児童の興味関心・学力向上にむけて)

⑤生徒児童の交流

- ・生徒による中学校紹介…体験授業時

⑥小小連携

- ・指導内容の共通化
- ・教材教具の統一化

⑦相互授業

- ・小から中へ、中から小への複数指導
- ・実技研修(理科実験、体育実技指導など)

(3) 資質向上 …研修と研究

- ◎実践的な授業研究を通して、教員の意識や指導力が向上を図る。
- ◎教職員の人間関係の広がりから学習の深まりによる子どもたちの成長を図る。
- 教科及び領域別担当者の交流を図る。

①小中合同研修会

- ・夏季休業中を活用し、先進校の取組(実践)を学ぶ。

- ②研究会・研修会への参加
 - ・授業研究
 - ・課題研修
 - ・授業観察
 - ・出前授業（教職員の研修の機会として）
 - ・数学科において各学期に1～2程度実施
 - ・希望教科があれば実施
 - ・発達段階の応じた「キャリア教育」の推進を図る・

- ③担当者会
 - ・長期休業中等を活用し、指導方法や実践について交流を図る。
 - ・共通実践を行う。

- (4) 特別支援教育 …接続と連続
 - ◎担任（担当者）及び児童生徒、保護者との交流を図り、小学校から中学校への繋ぎを図る。
 - ◎発達や学びの連続性を確保するための小中の円滑な接続を進める。
 - 小中合同により特別支援教育対策委員会を行う。
 - ①体験授業…年2回程度
 - ②児童生徒交流…年2回程度
 - ③児童観察…学期に1回程度
 - ④保護者教育相談…随時

- (5) その他
 - ◎掲示物の共通化
 - ◎学習規律の共通化
 - 指導の統一及び共有化（挨拶・清掃・登校・安全など）
 - 道徳教育

5 今後の動き

(1) 中学校1日体験授業

中学校に小学6年生が中学校の場を活用し、1日中学校生活を体験する。

ねらい：【児童】中学校生活を体験する。

小学校交流を図る。

【教職員】小小連携や小中連携を深める。

方法：①小学校ごとに小学校の授業

②小学生を3クラスに分けて、中学校教師による体験授業
教科・・・（ ）（ ）（ ）

③部活動見学（体験）

日程：

各小学校毎に小学校の授業1コマ～2コマ

中学校の教師による授業3コマ（ ・ ・ ）

給食

部活動体験

(2) 出前授業

数学科において、小中での一貫性のある授業を展開する。

授業を通して、指導力の向上を図るとともに、小中の接続を意識した授業を展開する。

指導について共通理解を深める。

授業を通して、中学校への期待感や興味・関心を高め、中学校生活への不安感の

解消を図る。
小中教員の連携を推進する。

6 準備関係

- ①年間計画の作成…小中の行事等のすりあわせ
- ②小中連携事業の日程確定